



# 鶴からの手紙

真鶴中学校だより 第二二七号

2020.8.28  
責任者  
市川 麻美

## スタート！二学期

「短い夏休み」が慌ただしく過ぎ去り、二学期が例年より早く(八月二十四日)スタートしました。休み中、特に事故等の報告はなく、生徒のみなさんが元気に学校に登校できて大変ありがたいことです。保護者のみなさまと地域の皆様へ深く感謝いたします。

夏休みと言えば、三年生にとって最後の大会(中学校総合体育大会)が行われるはずでしたが、今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、地区単位で(三年生のための)交流会という形となりました。本校は、サッカー部と女子バレーボール部が参加しました。この状況下なので、保護者の観戦・応援を遠慮していただき、会場責任者



として各校長が対応しておりましたので、観戦・応援(代表して)に行っていました。試合の勝敗よりも、三年生は中学校最後の試合で力を存分に発揮しようという強い意志を感じました。二年生には全力で三年生のサポートをするぞという気概を感じました。見ていて熱いものがこみ上げてきました。そしてとてもさわやかな気持ちになりました。三年生、これまでお疲れさまでした。この経験を今後の生活(進路決定に向けて)の力にしてください。



短い夏休みではありましたが、その間、恒例の教科相談と、三年生に向けての『サ・マ・スタ』を行いました。自習室(図書室)も設定しました。のべ三百名近くの生徒が参加していました。その意欲は今後に必ずつながります。



八月二十五日からお弁当ありで授業も開始、夏休みに学習したこと、報告等、授業内で行われています。制限の多い中での生活ですが、できる範囲でできることをやってみれば、それなりに楽しめるのではないかと思います。是非、さらに工夫して、できることの範囲を広げて楽しく学習・生活していきましよう。『マスク・手洗い・距離』は常に意識しながら…



## 特別の教科 道徳

昨年度から始まった特別の教科道徳(道徳の授業)では、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」ことを目標とし、単なる話し合いや読み物の登場人物の心情の読み取りに偏ることのないよう授業をすすめています。



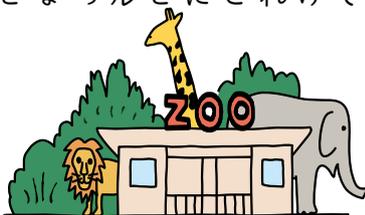
二学期最初の道徳の授業は、三学年とも八月二十六日(水)の一時間目にありました。一時間目ということもあって、エンジンがかかるまで時間がかかった？部分もあったようですが、どのクラスも、熱心に考え、議論する姿がありました。道徳の授業の内容について、ぜひご家庭でも考え、議論してみてください。



〈最近の道徳の授業から〉

三年

ルールを破ったけど二人の子を動物園に入れてあげた。→無事に戻ってきた。ならば、「賛否両論あると思うけど、いい話だね」で終わる。でも、ルール破ったけど二人の子を入れた→戻ってくることでできず周りに迷惑がかかったとなると…。実際にルールって経験があったて作られるものなどんじゃないのかなと思います。



三年

法やきまりは可能性を考えて作ってあるものだと思います。小学生以下の子どものだけの入園について、安全の確保ができないかもしれない可能性を考えて作ったものだから、ルールは常に守るべきだと思います。

二年

一方が尽くすだけでは「支え合う」とはいわないと思う。お互いがお互い

を「高め合う」からこそ「支え合える」と思う。

二年

犬も人間も同じ命だから、片方が何かをするだけではなく、お互いに支え合いながら生きていくことが大切なんだなあと考えた。



二年

人も動物も一緒に支え合わなければいけないと思った。人が動物を大切にすれば、動物も人に心を開くと思うし、動物の心が開けば人も変わると思う。だから人と動物とのかわりをもっと大切にしなければいけないと思った。

二年

自分も犬をかつているので、いろいろ感じるものがあるけど、自分が今犬と暮らせる幸せを感じた。そしていろいろな人の協力があるから今幸せに暮らせるんだなと思った。

一年

「不確かな情報で疑う」という話が印象に残っている。「友達がこんなことすると、嫌がるんじゃないかな

あ、「こういうことをしたら嬉しいんじゃないかなあ」など、友達についても自分についても考えることができました。

一年

自分は、もしかしたら利己の部分のほうが大きいかもしれないから、ほかの人のことも考えて、利他を大切にしていきたい。

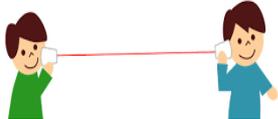
一年



一年

赤鬼にはたくさんの友達ができてたけど、優しい青鬼が嫌われるところを見て、赤鬼はつらかったのではないだろうか。たくさん友達ができただけど、青鬼と離ればなれになって、赤鬼はさみしいのではないだろうか。

この話を読んで感じたことは、事実がどうか分からないのに、人を疑うのは怖いことだなあと思いました。テレビなどのいろいろな報道を見ますが、その報道が事実で



あることを確認することを心がけたいです。

夏休みの思い出

一月のしぶんぎ座流星群、十二月のふたご座流星群と並ぶ三大流星群のうちのひとつとして有名なペルセウス座流星群。今年は八月十二日の二十二時ごろが極大でした。条件が良いところでは、一時間に三十個くらいの流星が見られたようです。流星が見られるのは十二日に限ったことではないことから、十三日の二十時ごろ、ちよつと外に出て夜空を眺めてみました。すると、五分くらいしてちよつと夜の暗さに慣れてきたころ、北東の空に力強く太く流れる星を見ることができました。

流れ星には願いごとといわれますが、実際には、あつという間の出来事で、そんな余裕はありません。でも、なんとなく得した気分、新型コロナウイルスに感染する暗いニュースが多い夏の夜空に、ちよつとだけ明るい未来を見た気がしました。

